



はら ゆうき  
原 裕貴 真庭市 (28歳)

～目指す農業経営～**何にでもチャレンジする精神!!**

- 就農時期：令和7年4月
- 就農年数：1年
- 就農の型：岡山市から新規就農

- 品 目：ぶどう・水稻
- 経営面積：ぶどう35a／水稻89a
- 労働環境：本人＋母親、友人

- 就農経緯：前職は、**HONDAディーラーの整備士**で、**自ら経営を行うとの強い希望**のもとで、ぶどうでの就農を決意。
- 事前準備：**受入農家の下で、1年間の実務研修**を経て、令和7年4月に正式就農。
- 研修内容：受入農家の下で、**OJTの形で研修**を受講。

## 新規就農から1～2年で苦勞されたこと

- 農地住宅：**農地は、叔父の紹介を通じて**借受。  
住宅は、真庭市の賃貸住宅（母親と同居）。
- 資金確保：**経営開始資金を活用中。自己資金がほぼゼロ。**研修  
中も収入がなく、当初は資金不足に苦慮した。
- 技術習得：**部会メンバーの指導**で、栽培技術を習得。
- 販路確保：**農協出荷8～9割。**  
残りは個人販売・飲食店への直接販売。
- 地域関係：**親族の知人**を通して親交を深めている。

## 定着までの取り組み

- 技術向上：部会メンバーの指導の下、栽培技術を向上。
- 農業経営：法人化を目指し、栽培品目を水稲とぶどうに加え、白ネギの3本柱で経営拡大を進めたい。
- 機械整備：動噴や運搬機等の導入を検討中。  
(補助事業活用)
- 販路拡大：JAの共同出荷や個人出荷の増加。

## 就農を目指す人へ

- 農業なくして、他産業なし！との思いで頑張ってます。  
プライドを持って、参入してください。



「ぶどう園に立つ原さん」



「田植え作業」



「収穫を待つぶどう」



「農業への心構え！」



いりえ せいき  
入江 勢起 岡山市 (42歳)

～目指す農業経営～**継承した農園を守り続ける!!**

- 就農時期：令和3年3月
- 就農年数：5年
- 就農の型：Uターンでの就農

- 品目：もも・ぶどう
- 経営面積：もも80a／ぶどう6a
- 労働環境：本人＋家族

- 就農経緯：**家具の製造・設計職（三重県）**からUターン。  
体を動かすことが好きで、父の代からの**果樹経営を継ぐ意向があり**、父の高齢と**子供の小学校入学のタイミング**でUターンを決断。
- 事前準備：機械・施設は継承したものの、老朽施設の撤去・改植を実施。（自己資金）
- 研修内容：JA岡山の『**果樹農業塾**』に参加。

## 新規就農から1～2年で苦勞されたこと

- 農地住宅：親元の農地を継承。  
住宅は、親と同居。
- 資金確保：前職時代の貯蓄で対応。  
(就農当時の資金支援では、対象外であったため。)
- 技術習得：父の指導と近隣農家から栽培技術を習得。
- 販路確保：農協出荷8～9割。  
残りは個人販売などの直接販売。
- 地域関係：親族の知人を通して親交を深め、消防団等の共同作業で信頼構築。

## 定着までの取り組み

- 技術向上：JA岡山の『果樹農業塾』に参加し、栽培技術を向上。
- 農業経営：剪定・摘果のコツを掴み、高品質を確保。
- 機械整備：軽トラ・動噴・パワショベル等は、既存のものを使用し、老朽化施設の撤去や、老木の改植を実施。
- 販路拡大：JAへ規格品を出荷。  
直売・産直・ネットで規格外品を販売。

## 就農を目指す人へ

- 就農する時には、色々な背景があって決断することがあります。  
考えるより、先ずはやってみよう！。



「もも園の草刈りをする入江さん」



「出荷されるもも」



「ぶどう園の管理」



「収穫を待つぶどう」



さとう りょう  
佐藤 亮 新見市 (43歳)

～目指す農業経営～年齢に関係なく続ける農業!!

- 就農時期：令和5年6月
- 就農年数：3年
- 就農の型：福山市から新規就農

- 品 目：露地 lindo、アスパラガス
- 経営面積：lindo 35a/アスパラ 10a
- 労働環境：本人 + 配偶者

- 就農経緯：広島県福山市出身。幼少期から祖父母のいる新見市をたびたび訪問。新見市の就農オリエンテーションで、lindo生産者を訪問したことがきっかけ。
- 事前準備：受入農家の下で、1年間研修。期間中は就農準備資金を活用。
- 研修内容：受入農家の下で、OJT研修、収穫後の出荷などを実践。県研修施設で栽培技術全般を受講。

## 新規就農から1～2年で苦勞されたこと

- 農地住宅：受入農家の土地を賃借、ほ場を確保。  
住宅は、新見市の祖父母の元住居。
- 資金確保：経営開始資金を活用中、家計は厳しく、配偶者のパート収入で補填。
- 技術習得：受入農家の指導と部会メンバーの支援により習得。
- 販路確保：全量をJA出荷。
- 地域関係：受入農家との相互理解が大事。  
また、近隣の住民と良好な関係づくりを構築。

## 定着までの取り組み

- 技術向上：受入農家の指導と部会メンバーの助言で技術向上。
- 農業経営：部会の機械・選果場を共同利用し初期投資を抑制。
- 機械整備：遮光ネットやハチネットを導入。
- 販路拡大：全量農協出荷（JA選果場を介して出荷。）

## 就農を目指す人へ

- 年齢が80～90歳になっても無理なく続けられる農業を目指します。

就農は、スローライフです。興味があれば検討してください。

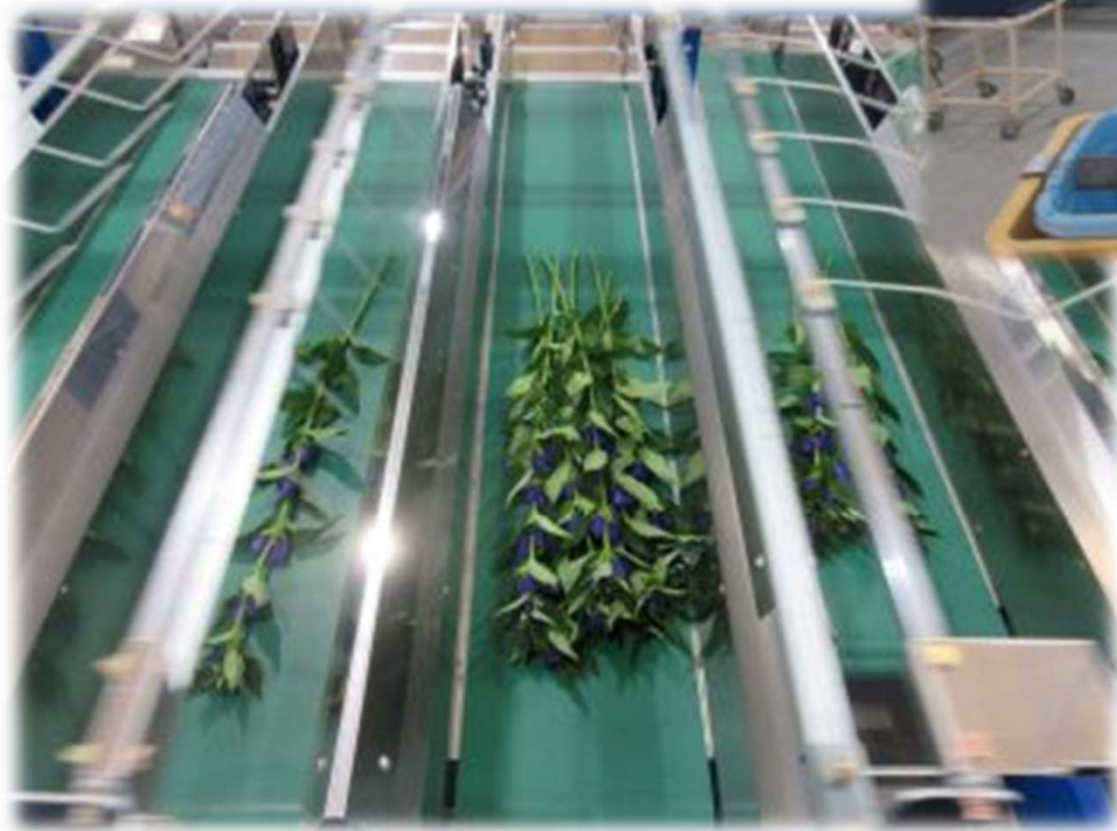


「出荷される Lindou」



「Lindouを管理する佐藤さん」

「リンドウの共同選花場」





さんとう かずゆき

氏名：三藤 一幸 丸草出荷組合（ぶどう）

～目指す農業経営～**研修生の育成に尽力!!**

- 設立年：明治44年
- 組合員：55名
- 研修生：研修生7名うち全員就農

- 品目：ぶどう
- 経営面積：ぶどう 1200a
- 販売状況：関西圏中心の市場出荷

- 設立経緯：明治44年（ぶどう販売開始）。**長年の販売実績と産地・信用を基盤**に、組合を運営。
- 事業内容：**産地組織**として、ぶどうの出荷・販売を担う。
- 研修内容：東京等からのIターンが多く、**新規就農者を積極的に受入れ**（これまで7名が就農。）その後、定着・拡大した例もあり。

## 新規就農から1～2年で、留意すること

- 農地住宅：住居は賃貸で確保しやすい一方、作業場や施設の確保が最大課題。就農前から受入側と相談。
- 資金確保：施設投資は、約100万円～2000万円/10a。制度資金の時期制約も踏まえ、資金計画を検討。
- 技術習得：当組合では、研修1年～2年目から就農して実践で伸ばす方針を実施。就農後も自己学習と反復作業に取組み、技術を固めた方が良い。
- 販路確保：関西圏を中心に、出荷するほか、直売・EC等で販路分散。
- 地域関係：地域コミュニティとの関係をつくるため、草刈り等の共同作業や交流に参加。

## 定着までの取り組み

- 検討期間：ぶどうの経済樹齢は、5年程度かかるため、**収量や販売の見通しなどを検討。**
- 機械整備：**機械（軽トラ、動噴）に初期投資を注入**し、部会等の選果場施設を共同利用。
- 品質確保：**一定の収量確保のために必要な機械を整備**し、その後、被覆や加温での収穫期の分散や高品質化をすすめるとともに、高温による着色不良等にも対応。
- 販路拡大：**JA出荷**を継続。

## 就農を目指す人へ

- 地域に溶け込み、**コミュニケーションと継続学習**を大切に。  
焦らず、**5年目の収益化を見据え**計画的に拡大。



「三藤師匠とお弟子たち」



「丸草出荷組合のロゴ」



「ぶどう棚」